

GOKURAKUJI DAYORI
極楽寺だより
2023(令和5)年 4月号



発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派）☎ 759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎ 0837-43-0625

春の永代経法要のご案内

慈しみの光あふれる春となりました。
生命の息吹を感じるとき、お浄土の人となられた方々が懐かしくしのばれます。阿弥陀さまのおすくいのご恩、お育てのご恩を味わい、仏祖のご恩を感謝して、春の永代経法要を次の通りお勤めします。お誘いあわせて、お参り下さい。

四月十三日（水）

昼一時半

夜七時半

四月十四日（金）

昼一時半

今回から、平常の法座と同じ形に戻します。
どうぞ、夜の座もお参りください。

御講師

福岡市 西教寺住職

森 哲人 師

花まつり



四月八日は、お釈迦さまのご誕生を祝う花まつり。花御堂を飾り、お釈迦さまの誕生時のお姿に甘茶をかけてお祝います。花御堂は、生誕の地「ルンビニーの花園」をあらわし、甘茶は「ご誕生の際に、甘露の雨が降った」という言い伝えによるものです。極楽寺では、春の法要の二日間、本堂に花御堂を飾ります。ご自由に甘茶をかけ、お参りください。



燃える闘魂 OSHIE NO KAKERA

燃える闘魂

〜病床からのメッセージ〜

二〇二二年十月、「燃える闘魂」プロレスラーの

アントニオ猪木さんが亡くなりました。私たち

世代の男性にとっては、本格的なプロレス好きでな

くとも、猪木さんが特別な存在だったことは間違

いありません。必殺技の延髄斬り・卍固め。「相手

の力を最大限に引き出した上で、それ以上の力で

倒す」という風車の理論。モハメドアリ戦に代表さ

れる異種格闘技戦。プロレスラーとしての突出したカリスマ性だけでな

く、型破りな発想、卓越したプロデュース能力で、第一線を退いた後も

存在感を発揮し、国会にも乗り込んでいくというハチャメチャぶり。「い

つ何時、誰の挑戦でも受ける」元氣ですかー元氣があれば何でも

きる」「1、2、3、ダアーツ！」といった数々の言葉。『イノキボンバイエ』

の曲が流れる中、ガウンをはおり、赤いマフラータオルをかけて入場する

華々しい姿を思い起こす方も多いのではないのでしょうか。

そんな猪木さんも、晩年は難病に苦しみ、車椅子生活を送られました

た。その姿が、『燃える闘魂 ラストスタンド』アントニオ猪木病床からの

～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～

メッセージ』（NHKBS

プレミアム二〇二一年）と

いう番組で放送されたの

です。あの華やかで力強

いアントニオ猪木が、痛々

しく弱々しい姿をさらけ

出した。そのことに、多く

の人が強い衝撃を受けま

した。なぜ、こんな姿を見せたのか。猪木さんは、こう語っておられます。

「本当はこういう映像は見せたくなくなつたんですけど、強いイメージ

ばつかりじゃなくて、こんなにもろい、弱い、どうとるかは知りませんよ、見

た人たちが。そういうひとりの人間として弱い面があつてもいいかなど。あ

えて見てもらつて」（『燃える闘魂 ラストスタンド』）

誰もが、古い、病み、弱々しく死んでいかななくてはならない。それもま

た人生の一部。その事実から目を背けるな。猪木さんの姿から、そんな

メッセージが伝わってくるようでした。そこには、闘い続けるアントニ

オ猪木の姿があつたのです。シビれました。本当にカッコ良かった。↙



「アントニオ猪木は、闘魂を失っていないか」と心を震わせたのは、私だけではないはずです。この番組は大きな反響を呼び、書籍にもなりました。その後もYouTubeチャンネルで、ありのままの姿を発信し続けた猪木さん。その姿は、多くの人々に勇気を与えたのです。

例えば、1998年東京ドームでおこなわれた引退試合で、「人は歩みを止めたときに、そして挑戦をあきらめたときに、年老いていくのだと思います」と猪木さんは語りました。まさにアントニオ猪木は、歩み続け、挑戦し続けたのです。その姿は、リング上の華々しいものとはまた違う輝きを放っていました。彼は「アントニオ猪木」として最後まで人生を生き抜き、そして死んでいったのです。



病いと死に向き合う生き様が印象的な方といえは、芥川賞作家の辺見庸さんが思い起こされます。辺見さんは、二〇〇四年の講演中に脳出血で倒れ、翌年には大腸癌を発病。後遺症に悩まされ、生と死に向き合いながらも、作家活動を再開されました。麻痺の残る身体で、ポツリポツリとパソコンを打って。なぜ、そんな状況にあっても書き続けるのか。復帰第一作『自分自身への審問』という作品に、こんな話が記され

～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～

ています。

辺見さんは、戦後日本の文芸批評の第一人者 江藤淳さんの死について語られます。江藤さんは、社会的にも大きな影響力を持った方でした。しかし晩年は、脳梗塞の後遺症に悩まされ、「脳梗塞の発作に遭い以来の江藤淳は、形骸に過ぎず、自ら処決して形骸を断ずる所以なり」という言葉を遺し、自ら命を絶たれたのです。当時、多くの人が「死に際がすつきりした人だ」「遺書はさすがに名文だ」と評価しました。しかし辺見さんは、同様の不自由に遭って以来、この言葉に「哀しくも底暗い衝撃」を受けたと言われます。

もちろん、自分だって自分を形骸のように思わないわけではない。不自由な身体がどうにかならないか、麻痺がなくならないか、と情けなくなるほどにいつも念じ、のべつ再発の可能性に怯える日々。每晚溺れるように眠り、目覚めるとあまりにも大きな不安と恐怖と悔恨に襲われながら、泣きも叫びもできずに、ただ骸のように仰向しているだけ。死と自死について、これほど考えたことはなかった。

でも、江藤さんの「形骸を断ずる」という言葉には、共感できなかった。やけに「勇ましい言葉だ」と違和感を覚え、「ご本人の苦悩と孤独と疲労の色合いから随分離れているのではないか」と思った。そして、「最後の最後にそんな言葉が出てきたとは何と寂しいことか、侘しいことか」と感じたそうです。

形骸とは、「精神を別にした身体。実質的な意味を失い、形式だけが残る。」を意味します。こんな私は、もう私ではない。実質的な意味は失われ、形ばかりでしかない。こんな私なら、生きていても仕方がない。そんな考えは、私たちの中に深く住み着いているのかもしれない。だからこそ、「自ら処決して形骸を断」じた江藤さんを賛美する人も多かったのでしょう。

しかし辺見さんは、「人は生きてある限り、どうあつても形骸たりえない」と言い切られます。一見形骸に似たものであつたとしても、その内面にはまた別の輝きがあるのではないか。人間を形骸化する思想に対抗するためにも、その輝きを私は書かなくてはならない。そして、江藤淳にもそれを表現する責任のようなものがあつたのではないか。そう語られるのです。

仏教では、執着を警戒します。それがどんな良いことであつたとしても、執着することで苦しみが生まれるのだと。人生において、華々しい輝きを放つ瞬間、充実した日々は、かけがえのないものです。しかし、その日々を執着するがゆえに、そうでなくなつてしまつた老い病む日々を、形骸化してしまつたのでしょうか。

華々しいときも、弱くもろい姿となつても、私の人生に変わりはない。よろけそうになりながらも、それでも歩み続けようとするアントニオ猪木さんの姿。人間を形骸化する思想に抗い、そこにある輝きを見出そう

～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～

とする辺見庸さんの姿に、心揺さぶられ、尊さを感じるのには私だけではないはず。

とは言つても、実際に自分がそうならら：と考えると、猪木さんや辺見さんのようには、なかなかなれそうもない。：。そう考えるのも私だけではないはず。そんなに強くなれるだろうか」と、尻ごみしそうにもなります。猪

木さんには「アントニオ猪木」の生き様があつた。辺見さんには、執筆というよりころがあつた。ならば私たちは、何をよりどころにすれば、人生のすべてを確かなものと受け止めることができるのでしょうか。私たちに、道はないのでしょうか。

先日、久しぶりに友人の住職と会い、語り合うことができました。彼は白血病に罹り、骨髄移植を受けたのですが、病状は一進一退。なかなか回復には至りません。それでも人生を生き抜こうと歩む姿に、私は常々尊敬の念を抱いています。

ところがそんな彼も、時に大きな不安に襲われ、眠れなくなるのだそうです。不安は、また不安を呼び、深まつていく。真つ暗な底のない闇に落ちていくような感覚に、言葉にできないほどの恐怖を覚え



辺見

庸

る。自分自身が見失われ、絶望的になつていく。ただただ否定的な考えしか思い浮かばない。前向きな言葉、立ち向かおうとする思いなんて、まったく出て来ない。

「そんな時、フツと思つたんです。阿弥陀様が受け止めてくださる。阿弥陀様におまかせする他ない。お説教で聞いた言葉が思い出された時、落ちていく感覚が止まり、我に返ることができたんです。このよりどころがあることが、どれほど有難いことか。気づけば、お念仏を称えていました」。彼はそんな話をしてくれました。

親鸞聖人は、「おおよそ大信海を案ずれば、貴賤・緇素を簡はず、男女・老少を誦わず、造罪の多少を問わず、修行の久近を論ぜず」（『教行信証』信巻）、裕福であろうがなかろうが、男女や年齢も、どんな罪を犯した者も、出家も在家も、修行を重ねた者もそうでない者も、選ぶことなく阿弥陀様ははたらいてくださるのだと教えていただきました。この言葉は、「誰でも」というだけでなく、「どんな私でも」という意味が込められています。

どんな私であっても、阿弥陀様は受け止め、寄り添ってください。そして、阿弥陀様のはたらきをよりどころとするからこそ、我に返り、人生に向き合うことができる。そこからまた、歩み出すことができる。そんな人々の生き様の歴史がお念仏に込められて、彼にも、私にも、至り届い

～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～

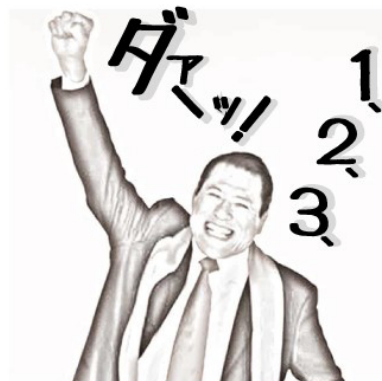
ている。そのことを、改めて知らされました。

それは、ただ生きることへの執着ではありません。いただいた人生を一杯生き抜き、安心して死を受け容れることができる歩みなのです。

華やかな輝きに執着し、そうではない自分は形骸だと、見捨ててしまふ。そんな寂しい生き方を、賛美さえする私たちです。しかし、私が私を見捨てても、この私を決して見捨てない阿弥陀様の世界があるのです。

阿弥陀様の願いとはたらきをよりどころにして、歩まれた方々の生き様を知らされる時、「こんな弱さを抱

えた私にも、歩める道が用意されている」と、私の心は震え、勇気が与えられるのです。 ■



極楽寺だよりを送りませんか

都会に出ておられる子どもさん、お孫さんたちへ。有縁の方々へ。お寺へお申し出ください。直接郵送します。



月々の言葉

Monthly Words



何を話せるかが知性
何を話さないかが品性

極楽寺掲示伝道
スピードワゴン小沢一敬

ひんせい
ちせい

4月の言葉

今月は、お笑い芸人スピードワゴン小沢一敬さんの言葉をご紹介いたします。角度の違う思考力とキザな言い回しが持ち味の小沢さん。この言葉も面白い指摘ですし、日頃から「上手いことを言うなあ」と感心させられています。私も、こんなに的確で、ユーモアにあふれた表現ができたら良いなあと思うのですが、自分の思いを言葉にするのは難しい。知性の足りなさを痛感しているところですよ。

私は「言いたいことがあるけれど、何と表現していいかわからない」というモヤモヤした思いを持っている時、本を読んでいて「そうそう！オレが言いたかったことって、こういうことだったんだよ！」と声に出したくなるような文章に出会うことがあります。ミュージシャンの歌詞にも、自分の思いが的確に言い当て

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

られたようなフレーズがあつて、「そうなんだよなあ」としみじみ感じることもあるのです。言葉にならない思いが、形となつて目の前に現れたような感覚。しかも、その言葉が足掛かりとなつて、またひとつ考えが深まるきっかけになるような。そんな言葉に出会うことは大きな喜びです（実は私の文章つて、「言い当てられた言葉」が散りばめられています。ただ、それはパクリではなく、学びの結果と受け止めていただきたいのです）。良き言葉に、人は導かれ、救われ、育てられることを、実感しています。

スピードワゴン
小沢一敬



身近なところでいえば、金子みすゞさんの「みんなちがって、みんないい」や、『世界で一つだけの花』の「ナンバーワンにならなくてもいい」ともと特別なナンバーワン」という言葉は、衝撃的でした。競争や比較に疲れ、自分を見失っていた人たちが、押しつけられた価値観に、違和感を抱いていた人たちが、この言葉に出会い「そうそう！私が言いたかったことって、こういうことなんだ！」と思いき共感した。だからこそ、物凄い勢いで日本中を覆い尽くしたのです。

Monthly Words

ところが、大切な言葉は、大切に使わな
いと劣化していきます。安易に、雑に使わ
れ、消費されるほどに手垢がついて、飽き
てくる。そして、「努力をしないヤツの言



い訳だ」「向上心を失わせる」「現実逃避だ」と言われたり、「み
んな違っていいんだから、あいつのことなんて関係ない（みんな
ちがって、どうでもいい）」という態度を正当化するために使わ
れたりして。今ではすっかり、あの輝きは失われてしまいました。

やはり、言葉は「生き物」であり「生もの」なのだと思い知ら
されます。そして、言葉は万能ではなく、限界があることも。あ
る場面ではとても心に響いた言葉が、違う場面でも有効かとい
うと、そうとは限りません。また、自分に響いた言葉が、みんなに
も響くわけでもないし、逆に人を傷つけることもあります。なぜ
なら、置かれている状況も、悩んでいるポイントも、それぞれ違
うから。やはり、言葉を雑に扱うことは要注意なのです。大切な
言葉が劣化しないように、安易に振り回して人を傷つけぬよう
に、常に気をつけなくてはなりません。だからこそ、仏教では
「不妄語戒」（誠実さのない言葉を言わない）や「義に依りて語に依
らざれ」（言葉の真意が大切であり、言葉の表面に捉われてはいけない）
など、言葉への向き合い方に、常に警鐘を鳴らしています。↘

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

ところで、親鸞聖人の主著『教行信証』の書き出しは、「竊以（ひ
そかにおもんみれば）」という言葉で始まります。これは、「自らの
思慮分別を超えた、仏様のさとり領域を、私なりに考えてみる
と」という意味で、様々な祖師の著述にも見られる表現です。私
はこの言葉に、限らない謙虚さと覚悟を感じるので。本来さと
りは、言葉にできないもの。それを言葉にすることは、さとり
世界を陳腐なものにしかねない。しかし私たちは、言葉にしく
ては理解できず、伝えることもできない。その限界性を知りつつ、
それでもなお語らなくてはならないという覚悟が込められた、背
筋が伸びるような言葉だと、私は思うのです。

私たちが日頃話す時に、それだけの覚悟を持つべきだと言
うよりはあります。ただ、親鸞聖人の姿勢を通して、世の中には
言葉には表せないことがあり、それに対して謙虚に向き合わねば
ならないことを、学ぶ必要はありそうです。

その代表格が、「悲しみ」や「痛み」だと言えるでしょう。大
切な人を失った悲しみ、過酷な環境下で抱えた生きづらさ、差別
や偏見…。そんな「悲しみ」「痛み」は、周りが安易に「私も、
その気持ちわかる」「私にも経験があるから」「こういう気持ちな
んでしょう？」と言葉にしてしまうと、薄っぺらなものになりか
ねません。「私の知性は、あなたの思いを言い当てられる」と

いう思い込みは、傲慢ごうまんでしかないのです。それぞれの悲しみは、それぞれに違う。「私はそれを耐たえた。だから、あなたも耐えるべきだ」などと決めつけられてしまうと、人は深く傷つきます。だからこそ、口籠くちどもるしかない場合もある。黙だまって、寄り添ようしかないこともあるのです。何を語らないか、何を語ってはならないかという態度は、相手への思いやりや配慮はいりよが生み出していくのでしよう。それを品性ひんせいというのだと思います。

消費社会である現代は、様々なものが消費される時代です。メディアでは多くの言葉が安易に、そして垂れ流なされるように消費されています。たとえばそれが、大切にすべき言葉であったとしても。そんな時代に流されぬよう、時には立ち止まり、口籠くちどもる。そんな営みいとなを心掛こころがけねば、知性が足りないだけでなく、品性しんせいまで賤いやしくするのではと、我が身を心配する今日この頃です。 ■



お念珠 修理いたします。

気軽に、お寺へお持ちください。



Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

子どもは 極楽寺掲示伝道
失敗しっぱいしているのではない
この方法では
成功せいこうしないことを
発見はっけんしているのだ

5月の言葉

「カーリング」という競技きやうぎをご存知ごんじでしょうか。氷の上を滑すべらせたストーンを、先回りさきまわした選手がブラシで氷を擦こすり、自分の思う方向へと操作そうさし、点数を競うこのスポーツ。冬のオリンピックでも大人気です。

では、「カーリングペアレント」はご存知ですか？これは、カーリングのように先回りさきまわして、子どもの障害物しょうがいぶつをあらかじめ取り除のぞき、自分の思う方向に操作する過保護かほごで過干渉かかんじやうな親のことだそうです。同じ意味で、「ヘリコプターペアレント」という言葉もあります。ヘリコプターのように、子どものまわりを旋回せんかいして見張り、何か起きるたびにすぐに飛んでくる親だから。

どちらも子ども可愛かわいさ故ゆえの行動なのでしょうが、過保護、過



Monthly Words

干渉で育てられた子どもは、問題を解決する能力が育たず、親の顔色ばかり伺うようになり、自分で決めることができなくなるようです。また、精神的にも不安定になるなどの悪影響が指摘されています。やはり子どもの成長には、様々な経験が必要なのです。親が、子どもの経験を奪ってはいけません。特に、失敗の経験は重要です。思い通りにならない問題に向き合うことは、「これを解決するにはどうすれば」と考え、工夫し、助け合うなど、様々な学びにつながります。



「成功から学ぶことは少ない。人は失敗から学ぶ」と言われた方がありました。確かにその通り！成功している時は、調子に乗っている分、うかつに見落としていることが多いもの。失敗し、立ち止まり、自分を振り返らなくてはならない時ほど、学びや発見はたくさんあります。

私たちは、失敗や間違いは、恥ずかしく嫌なことだと思っはていないでしょうか。だから過保護な親が、「子どもに、そんな思いをさせたくない」と考え、その経験を奪おうとするのでしょうか。

何より、「私は間違っていない」と失敗を認めない、目を背けて反省しない、誰かに責任を押しつけて向き合わないという態度、

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

は、新たな自分と出会うチャンスを失ってしまいます。きちんと失敗や負けに向き合うことこそ、とても大切な経験なのです。

現代史家の秦郁彦さんは、太平洋戦争末期の日本における青年将校の暴走は、負けた経験がなかったことにあると指摘されています。欧米のように、勝ったり負けたりといった体験をしていると、負けた時の状況も自ずから想像がつく。落とすどころをどの辺りにすべきかという交渉もできる。しかしエリートで、しかも敗戦体験がなかった彼らは、「負けるくらいなら、一億玉砕だ」といった極端で狂気的な発想になってしまったのだ。 (NHKスペシャル『半藤一利「戦争」を解く』)

転んだ経験を通して、転び方や立ち上り方を学ぶのです。転んだことがないままに歳を重ねると、少しの躓きで「人生が終わった」と勘違いしかねません。

やはり、親が本当に安心できるためには、子どもが「失敗しても大丈夫」と言えるように育つしかないのでしょうか。失敗しても、敗けても、落ちても大丈夫と思えることが、本当の安心を生むのです。失敗しないこと、落ちないことにしがみついている間は、どこまで行っても不安はつきまとってきます。

『観無量寿経』や『涅槃経』などの經典に、古代インドのマ

カダ国のアジャセ王という人物が出てきます。王の座に就いた彼は、大きな苦悩を抱えていました。彼は王位継承にあたり、父である先王を幽閉し殺害、後には母も幽閉したからです。次第に、自分がしたことに罪深さを感じていくアジャセ。熱を出し、皮膚はただれるほど、身心共に苦しみ始めます。

そこで家臣たちは、アジャセの苦しみを抜こうと、それぞれに当時の有名な思想家たちを招きました。ところが彼らは「あなたに責任はない」「気にするな」といった、現実から目を背け、責任を回避することばかり語ります。しかしアジャセの苦しみは、そんな話では救われませんでした。

その後アジャセは、ギバという大臣の薦めによつて、お釈迦様のもとへ行くこととなります。そのきつかけは、ギバの「あなたは自分の犯した罪の重さを知り、慚愧の思いを起している。それは素晴らしいことだ」という一言でした。苦しみから抜け出すには、自分のしたことに責任を持って向き合うことからしか始まらない。その言葉に魅かれ、ギバの



手塚治虫「ブッダ」より

救いを求める アジャセ王

導きでお釈迦様のところへ行くことを決めるのです。

実はアジャセは、自分の罪によつて地獄に墮ちることを、最も恐れていました。お釈迦様にも「地獄に墮とさないでください」と頼み、ギバには「私だけ墮とさないでくれ。お前、何とかしてくれ」と、何ともみっともない姿を晒します。

そんなアジャセは、結論から言えば、お釈迦様に出会い救われていきます。それは、地獄に墮ちない身になれたからではありません。アジャセは、こう語るのです。「もし、生きとし生ける者の苦しみを壊すことができるなら、私は地獄に墮ちても後悔しない」と。

実はこれこそが、地獄の恐怖を乗り越える唯一の方法なのでしよう。「極楽に往けるから、地獄に墮ちなくて済む」ということであれば、地獄を恐れる気持ちは残っています。地獄を克服するためには、地獄に墮ちても後悔しないといえる人間となることしかない。そう覚悟できるほどの大切な歩みと出遇うしかない。そこにこそ、本当の安心が生まれてくるのだと教えられます。親鸞聖人は、このアジャセが救われていく様を、とても大切にされ、自らが救われていく様に重ねられています（私も大好きな箇所、ここを読むと、いつも感動で心が震えます。特に、コンプレックスとの向き合い方においては、重要な指摘だと思いま

物でお布施

mono de ofuse

書き損じはがき・未使用切手
商品券・未使用テレホンカード
ビール券など金券・CD・DVD
ゲームソフト・ゲーム機器など

換金し、海外の難民支援や国内
災害の被災者支援に使わせてい
たきます。

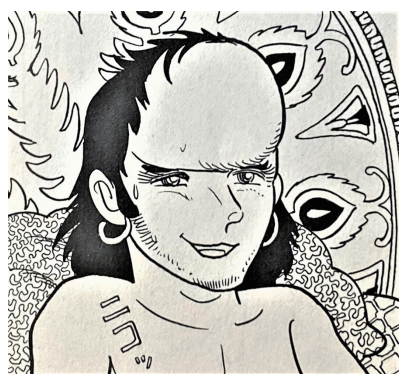


プルトップも
集めています！

本堂の回収箱へ

月々の言葉

す。
一般的に受け止められている宗教の救いとは、「悪いことが
起こらない」「地獄に堕ちない」「神様がカーリングのように
先回りして障害物を取り除いてくれる」「仏様が、ヘリコプタ
ーのように、何かあったらすぐに飛んできてくれる」、そんな
はたらきだと、思われてはいないでしょうか。
阿弥陀様の救いは、まったく違
います。私の人生は、あくまでも
私が歩むもの。ただ、その歩みを
確かなものとする力を、与え、育
ててくださるのです。 ■



納骨堂新築に向けて 十年計画 スタートします 新規加入者募集中 詳しくはお寺まで

トルコ・シリア大地震支援の募金箱を本堂に設置しています

トルコは、東日本大震災の時には、支援部隊を最後まで派遣してくれた国です。恩返しの気持ち、そして「困っている時は、お互いさま」の精神で、本堂に募金箱を設置しました。ご協力お願いします。



住職の
つぶやき

Jyuusyoku's
Tweet

□ 野球の世界大会ワールドベースボールクラシック(WBC)は、見事！日本が14年ぶりの優勝を飾りました。やっぱり大谷翔平は凄かった！カープから選ばれた栗林投手が腰のハリで離脱、元カープの鈴木誠也選手はケガで辞退と、少し寂しい思いはしましたが、代表選手の活躍を興奮しながら観ていました。さあ、今度はプロ野球のシーズンが始まります。今年のカープはどうなのでしょう。新井新監督には、大いに期待しております。□ さて、昨年末より続いていた忙しさが、ようやく落ち着いたようでホッとしております。忙しさの原因のひとつが寄稿依頼。本願寺の新聞等から「文章を書いて欲しい」と依頼が、続けて四本もあったのです。これまでも時々はありましたが、こんなに続くのは初めてのこと。それをまた、安請け合いするものだから…。しかも『極楽寺だより』とは違い、厳しい字数制限があるのです。これには頭を抱えました。ただ出来上がりを見ると、明らかに短い方が読みやすい！昭和の名優 勝新太郎が、「芸は引き算だ」と言っていたそうですが、文章も話も短い方が良いことを、つくづく思い知らされました。これが『極楽寺だより』にも活かされれば良いのですが、今回も長くなってしまい…。精進いたします。(住)

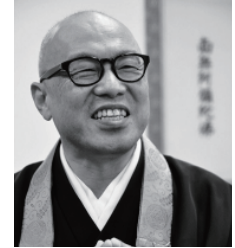
盛りだくさんの『春の彼岸会法要』 無事終わりました！

3月4日に勤修した『春の彼岸会法要』、盛りだくさんの内容で、大いに賑わいました。その内容を、ここにご紹介いたします。



① 釈徹宗先生に、ご出講いただきました

テレビでもお馴染みの釈徹宗先生に、四年ぶりにご出講いただきました。相愛大学の学長になられ、本当にお忙しい中来ていただき、感謝、感謝です。



② 第一回極楽寺ギャラリー『緒形拳書道作品展』開催



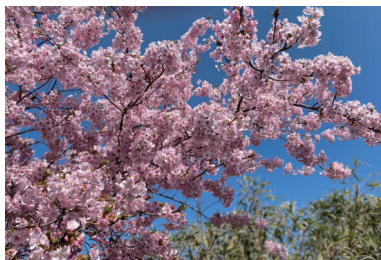
香月家のご協力により、極楽寺ギャラリー『緒形拳書道作品展』を開催することができました。何より、ほとんどお金をかけずにできたことに、住職は鼻高々。パネルは公民館から借用。テープパーテーションは、ご門徒の石川義文さんの手作りです。作品展作の様子は動画にまとめ、極楽寺ホームページにアップしています。興味のある方は、極楽寺.comで検索するか、右のQRコードからご覧ください。



③ お内陣、ライトアップついに完成！

昨年彼岸会に、阿弥陀様のライトアップを行いました。今回は親鸞聖人を始めとした内陣のライトアップを行いました。これも、住職のDIYですので、経費は最低限の抑えられています。まだご覧になられていない方は、ぜひお参りください。かなり良い出来では…と自画自賛しております。

④ 彼岸会に合わせてように、河津桜が満開に！



彼岸会のお参りを歓迎するかのよう、今年も駐車場の河津桜が見事な花を咲かせてくれました。一足早い桜に、春の訪れをいち早く感じることができます。来年も、この時期のお花見は、ぜひ極楽寺へ！

ご報告

野波瀬の宮崎忠彦世話人が退任され、宮崎節子さんが新しく世話人を勤めてくださることになりました。

次回法座の予定

仏教婦人会降誕会 5月21日(日)
夏法座 6月27日(火) 28日(水)

御講師 大來尚順 師(山口市超勝寺住職)